

留学報告書 ～新しい学び・新しい挑戦～

コー大学
外国語学部生（中期）

私は 2019 年 8 月から 12 月までアメリカのコー大学に中期留学しました。お盆休み最中の日本を出発し、約 1 日かけてコー大学に到着しました。VISA をとって留学することが初めてで最初の保安検査から税関までずっと緊張していました。アメリカについて最初の保安検査でパソコンがひっかかってしまい自分の英語力のなさがっかりしたことも覚えています。現地の英語の速さに驚きながらも自分で何とかしなければならぬので聞き直して無事保安検査を通ることができました。また、コー大学へは自分を入れて 6 人おり、その全員が同じ便だったので安心して到着できました。コー大学に到着後にメンターの学生にそれぞれの寮に連れて行ってもらいました。次の日には必要なものを買に行ったりキャンパス内を散歩したりとリラックスしてオリエンテーションまで過ごすことができました。

到着して 2 日ですぐ留学生向けのオリエンテーションが始まり、アメリカの大学生活や文化などを教えてもらいました。また、病院などのシステムも各国違うので体調が悪くなった時の対応などの話も聞きました。コー大学は寮の数が多く留学生でもばらばらの寮に入るので各寮の RA と話す機会もありました。RA は全員優しくて、日本人がシャイであり話せなくても話を振ってくれて輪に入ることができました。留学生用オリエンテーションが 3 日間ほどありそのあと入学生オリエンテーションがありました。アメリカの一般の学生も入学だったので入学式もあり、授業の受け方や学内での生活の注意事項なども聞きました。まだアメリカについて 1 週間ほどで英語に全くついていけずとても苦労しました。日本で勉強していた英語とは違いネイティブ特有の言い回しや出身ごとのなまりがあり聞き取れませんでした。しかし、留学生のグループを担当していたオリエンテーションのリーダーがわからないところをいつも教えてくれて、わかるまで何度も説明してくれました。このオリエンテーション期間の中に自分の担当のアドバイザーとの面談もあり、ESL での授業を決めました。私はアメリカの一般学生も受けるレギュラークラスがとりたかったのでその希望も伝えましたが、ESL の授業が 6 クラスあったことと自分の英語力についていけるのかという不安があったためレギュラークラスをとることをあきらめ、ESL に専念し、他の課外活動に積極的に取り組むことに決めました。

私が受けた授業は 6 クラスですべて ESL でした。四技能のレベルを上げるための授業で基礎を学びました。文法・プレゼンテーションの授業は同じで学んだ文法を使ってプレゼンをしました。学ぶ文法はすでに学んでいたものばかりでしたが、英語で学ぶことでその文法を英語で説明したり質問したりできるようになりました。プレゼンテーションでは学習した文法を使って最大 5 分の発表をしました。私個人の目標としてスクリプトを見ないという目標を作っていたので発表時はスクリプトを一切見ずにアイコンタクトを意識して行いました。その結果、以前よりも英語を使って人前で話すときに緊張しなくなりました。リーディング・ライティングの授業は 2 種類あり、一つでは長文読解とその章ごとにライティングをしました。この授業では比較的長めのエッセイを書き、英語のエッセイの書き方・ルールを学びました。書き方を学ぶことで書き出しがスムーズになりました。もう一つの授業では、章ごとに新しい単語を学びその単語を使って自分の経験を踏まえた文を作りました。自分の経験を混ぜて文を作ることで単語が頭に入り覚えやすかったです。発音の授業もあり、私はこの授業が一番苦手でした。日本人にとって難しい発音の音の差は英語のネイティブにとって大きな違いがあり区別がとても難しかったです。しかし、日本で

学ぶのとは違いネイティブから発音の仕方を学ぶのでコツをつかむまで練習しました。授業内だけでなく普段の友達との会話から発音を意識して過ごしました。リスニングの授業ではレクチャーの DVD を見てノートをとりました。母語ではない言語を聞いてノートをとるのは難しかったです。また、四技能の中でリスニングが一番苦手としていたので最初は全く聞けず苦戦しました。しかし、普段の生活で英語ばかり聞くので自然とリスニング力も上がり学期の最後には、リスニング力が上がったように感じました。TOEIC の授業は教材をもとに日常生活でよく使う単語を覚えました。覚えた単語を実際にペア・グループワークで使いました。新しい単語の他にも復習の時間がたくさんあったので多くの量の単語を覚えられました。授業は全体的に難しすぎるということはなく私たちのレベルに合わせて進めてもらっていたように感じます。授業内で疑問に思ったことは些細なことでもそのままにせず自分から先生に聞きに行きました。先生だけでなくネイティブの友達にも聞きました。特に文法は日本人にとって理解しにくいこともあったので、日本語を勉強している友達と自分の母語を共有して教えあいました。授業外でも学んだことを使ったり聞いたりすることで覚えやすくなり、使えるようになりました。



課外では留学生が入る International Club の他に日本クラブ、アルティメットフリスビークラブに参加しました。アメリカの大学のクラブ活動は日本と違い、軽めのもので気軽に行ったり、予定があったらそちらを優先できたりするというものでした。私は、課題に追われていたり、留学生用のプログラムと被っていたりして休まなければいけない日もありましたが、この文化のおかげで辞めずに続けることができました。3つのクラブの中でアルティメットフリスビークラブが一番印象に残っており楽しかったです。週3回2時間ずつの練習があり週末には試合に行くこともありました。私は元々運動が苦手でしたが留学を機に新しいことを始めてみたいと思い入りました。ルールが全く分からないことに加え、チームメイトが話す英語も ESL の先生が話す英語とは違って最初は全く聞き取れませんでした。しかし、チームメイトは私が英語がわからないからと言って突き放さずに声をかけてくれました。授業では学べない実際に学生が話す英語や訛りを知ることができました。英語に限らず、現地の学生のやさしさに触れ、言葉で伝える前に自分から積極的に動くことや周りを見る大切さを学びました。この経験から私はコミュニケーションの楽しさに改めて気づき成長することができました。4か月間の留学生活の中で一番の思い出です。クラブ活動の他にコンバセーションパートナーというものがあり現地の学生と1週間に1時間ほど一緒にご飯を食べたり散歩に行ったりカフェに行ったりしました。アメリカの文化についてや今受けている授業の事、家族のことなどいろいろ話しました。知らない単語もありましたが、聞いたらわかりやすく説明しなおしてくれて新しい知識も入り、リスニングの練習になりました。この他に、私にはホストファミリーがいました。家に住むのではなく週末に家に行ったり一緒にお出かけしたりしました。私のホストファミリーは子供

が6人いてまだ小さい子も多かったです。小さい子が話す英語は聞き取るのがとても難しく、いつもマザーやシスターに聞き直していました。しかし、子供はいつも遊びに誘ってくれて、私が知らないゲームをするときも一生懸命説明してくれました。ファミリーはクリスチャンだったので日曜日にはよく教会に連れて行ってもらいました。私は学校の授業でキリスト教について学んだ程度だったので聖書の内容も分からずお話も分からないことばかりでしたが、いつも終わってからホストマザーが要約して説明してくれました。一般家庭で生活するには英語力がまだまだ低く難しいことだらけでしたが、ホストファミリーのおかげでアメリカの一般的な生活スタイルを知ることができ、生活の一部を体験することができました。これは、実際に現地に行かないと経験できなかったことです。ホストファミリーのおかげでたくさんのお話を学べたのでとても感謝しています。



留学中は主に i-Club から、様々なイベントがあり積極的に参加しました。カヌートリップやカルチャーショーなど各国からの留学生もたくさん参加し仲良くなれました。カヌートリップでは、カヌーの他にも自由時間にみんなでバレーをしたり夜にはキャンプファイヤーをしたりしました。些細なことでも文化の違いを知れることが多くあり楽しめました。カルチャーショーは有志で行い、自分の特技や自分の国の歌やダンスを発表するものです。私は日本人のチームで箸を使うゲームと恋ダンスをしました。準備期間は2週間ほどでゲームの流れを決めたり、ダンスを覚えたりしていました。学校の敷地内にあるホールを使って行うため、たくさんの方が見に来ました。私のホストファミリーも見に来てくれました。日本らしく浴衣を着てダンスを踊り、観客の方もとても喜んでくれました。留学生の友人も、それがきっかけで恋ダンスを知り、勉強の合間にダンスの音楽を聞いているよと教えてくれる子もいました。このようなイベントのおかげで日本のことを知ってもらうだけでなくそのあとの会話にもつながりとてもいい経験になりました。



私は学期中にあったサンクスギビングブレイクでシカゴとボストン、学期終了後にフロリダへ行きました。シカゴは i-Club で行きました。バスでみんなで行き、着いたら自由行

動だったので市街地を歩いたり夜景を見たりしました。ボストンは個人的に ESL の友人たちと行き、ボストンの昔からの街並みを歩きました。また、有名大学であるハーバード大学・マサチューセッツ工科大学にも行きました。どちらの大学も敷地内に入ることができて校舎の中を見たりキャンパス内を歩いたりしました。学内にはオブジェがあつて写真を撮れるスポットが多くありました。大学を見に行ったことによって勉強への意識が高まりました。秋学期終了後は Christmas International House に参加するためフロリダへ行きました。プログラム開始まで数日あつたのでオーランドにあるウォルトディズニーワールドに行きました。本場ということもありとても広かったです。そのあとはタンパへ行きプログラムに参加しました。今年のタンパの参加者は日本人、中国人が多く通じる話も多かったです。お互いの文字の話、文化、情勢など普段できないような話も、同年代の学生同士だからこそできたと思います。クリスマスには自分の国の料理を作りみんなで一緒に食べました。英語だけでなく外国語全般に興味がある子が多く、お互いの言語を教えあいました。プログラムのスタッフの人がイルミネーションや年越しカウントダウンなどに連れて行ってくれたので日本で過ごすのとは違う年末年始になりました。プログラム自体は2週間ほどでしたが2週間とは思えないほど濃い思い出ができました。



5 か月間アメリカに滞在して学んだことはたくさんあります。その中でも一番良かったと思えるのが人の温かさに触れられたことです。授業も課外も旅行も現地で出会った人がとても優しく、いろいろなことを教えて体験させてくれたからこそ私はコミュニケーションが楽しいと思えて多くのことを学びました。このことから私は成長することができました。出会ったすべての人に感謝しています。自分が学んだことをこれからの学生生活に反映し、後輩にも伝えていきたいです。